



文

粹

教令

和漢文操
言表類
言信類
教令類
四

5
4710
4

4710
4

おのゝちのこゝろは 北の島波の
浪は ちかぬれをゆく
神の 海波



和漢文孫巻之四

○美妻類

剃髪文

東蒼坊

柳後園の吾仲剃髪して遠く國急ぎのたとも
近くせゐるの樂に入んこそそより人向の如き
舟にせむく之界の輪廻とらんをさるしとらん
きんしとらん仰のまのいのみさるんまら
とらんこゝと顛倒とも縁轉ともなりはれとけせし輪廻



1/24

くちららんもは抑のなひおしやうくちらんも世はれ
人の罪をよむもあきま百阿くいんをうけり
て此清れ自在にあそむ時を要る事途の中への
もしくそ心音束の性すとてくしくしくと静かに
帰候もりて一文不知のるくさるるをよせ

○註曰△聖取林清規剃髮文流轉之界中因念受不能斷
羣因入無為一真寶報恩者 △佛經善田力子善
女人よ愛まらね勸善の詞なり △禪録之泉村重を
承如トハ片山里ノ愚まら云リ △聖取林清規得度ノ下ニ
之飯戒ヲ授ニ師云汝能持不沙弥云能持云

△高沙院經云十八折言領アリ細奉ニ及ス △教行信證三遠流
ノ旨アリテ愚弄ハ沙汰アリ一向内大秘訣ナリ △禪語汝只
莫慢人莫見人慢 ○西行等世の中此人を人せむの松原
のりくわいのめくわくやまきれ ○控そくめくあふ地
及くも平のあつおとをくくあれ ●白雲齋集匹如身
後有何事應向人間無所求 ○持弓ハ剃ノ詞寄より發
心ノ事多し ●白詩 坐歌遙同孤雲の上聖主來迎落日
前 △清規授戒下誦授飯依之宝語之遍飯依飯依
法飯依僧云 △又不知ハ牧起請ノ詞三四文枝々結語
○標云けむら例の虚誣あつて平竟を愚のてまてり
能治の酒屠とつてつての虚中の空の眼とつてつて
それいふものへ表類をまてりを割裂る仰り飯依

始ありしに子よりきく孫ありしに子よりありしに。を
 芭蕉家の捧以し、虚妄の妻とらふをたせしむら
 我家の事劇とらふに、孔行し向科の十折ありて、
 武陵、枚以、崑崙、あれ、具、角、瓦、雪、と、国、の、都、を、
 ろう、と、洛、陽、し、子、那、尚、白、あれ、ま、来、お、竹、と、清、の、ま、り
 と、あ、り、と、一、龍、宗、の、浦、く、い、陸、奥、の、来、く、も、も、陸、と、ま、り、
 と、あ、る、を、あ、り、と、う、に、我、師、の、つ、ら、れ、い、武、洛、の、従、事、し、親、友
 しく、幻、位、庵、の、山、居、く、薪、水、の、方、と、人、の、力、も、芭、蕉
 庵、の、撰、集、あ、り、筆、の、名、の、お、も、う、え、う、れ、く、評、言、を
 せ、し、し、孫、り、い、ま、う、ら、う、と、い、は、し、く、と、科、と、い、は、し、く、い、ま

といふまゝと、神のあつて、なりて、百世の證し、
 といふまゝと、我師の法りと、まゝと、祖師の二道と
 天下のいま、一、威、儀、之、年、の、代、年、し、七、年、と、湘、南
 の、本、曾、寺、に、一、日、子、向、の、追、善、と、修、せ、し、遠、近、七、ヶ、國
 の、行、ま、お、と、保、し、十、ヶ、年、と、法、の、双、林、寺、に、二、ヶ、句、の、代、法、と
 の、あ、り、に、お、と、守、國、の、名、い、り、あ、り、あ、り、の、法、事、い、ら、ま、
 や、と、之、教、の、國、く、い、ぬ、く、一、會、お、の、と、あ、り、い、ぬ、あ、り、
 ま、り、武、洛、の、ち、ら、ん、と、感、作、の、い、ま、と、ま、り、い、ら、う、た、ま、
 一、と、り、お、の、は、糸、と、い、く、ま、り、は、し、し、十、ヶ、年、と、假、名、の、雅、と
 制、り、て、ま、の、双、林、寺、く、遠、ま、と、い、ま、り、と、自、行、地、つ、と

えつらう倍倍のふあるふとてかたむくはらき連珠の
以新とあり一山の宿徒とは灯とかきき薫香指花
のはきとほくさくさあふ双柑の林はたけ手
のまふりくまきとまきまき歌のまふあふはらひはらの
まふれいあけかきとまきまき遺物よひまきまきせらの像
とけいよにむらうて才一と倍倍の軒とらや中二一の
り輝の像とほくさくさあふ香火の園とほくさくさ
く一視るの累はまき我作の成功まきまきや倍倍と
ふくまきくまきまきまきまきまきまきまきまきまき
や我作の文字とまきまき一視るの遺物とけ子庵

くまきく一馬の四十二はらひ能譜十論の筆授あり
て和漢と世比のれ用とあり一良字式と再撰して
右今に法式の所いときりく二書と我々の大撰あり
とや以や唐土の物詔解とやうけく我々の大和詞
くあきくまきまき源中杖長の類より神書のみまき帝詔
のまきく倍倍とまきまき直伝とあり一直伝とまきまき
倍倍とあきまき一字の不用あきまきまきまき
の詩と裁く一國法と和訓の韻とまきまきまき
の詩と制くまきまき平仄の比とまきまきまき
此新話とありまきまき右今の所伝とまきまきまき
まきまき

へ大に辭句とてい束韵の俳諧とてい辭類とてい和漢の
 ことしとて定規の引類とて古文の不明とてむかふ
 九條と和漢の碩学とていさう我々の文道といふは
 とまれの法式とていその私とていよとていさう我々の
 へいさうとてい子歳の真とていあふらんかたれとて文字
 の歎けとてい東華式とてい一府の設とてい一子録の
 五條の文とていあふらんかたれとてい俳諧とてい條の注とてい
 文章とてい五條の式とていさうとていさうとてい我々の撰
 して遺行の文秘とてい我々の秘とていあふらんかたれとてい
 我々の言語と表とてい史記の諺言做中とてい例の例

く例のさうく例の文倫と和する時とていさうとてい
 けとてい老とてい人との原とていさうとてい温とていやう
 うありとてい厲とていさうとていさうとてい虚実の自在なり
 言語の可なりとていさうとていさうとてい我々の言とてい坐断
 とていさうとてい信とていあふらんかたれとてい妻子の釘語とてい
 とてい軽心の悪は名へ謙語の家とていゆつとてい彼とてい説諫の
 諷とてい今や産神の信とていさうとていさうとていかく他人の名
 と稱してと種の歎けとていさうとていさうとてい我子とてい
 ちねとていあふらんかたれとてい罪とていさうとていさう
 の功とていさうとてい遠くとてい祖傳の道とていさうとてい我

師の徳とて一に遊んばさくねるる所頼るる所なり
師はといひに儒はとやうけ能諧の世はといひに
時ノ享保丙午の一月十二日筆と寶之前の
とてしてけまともうとて誠恐頓首敬白

○註曰△吾國の入無為上ノ刺髪又ナリ前ナリ △釋録
百發百中ト云ルヲ多ニ發トハ頓挫ノ翻轉ナリ △論語
吾道一以貫之トアリ万貫上ノ理万通ノ敏捷ナリ △詩格春
宵一刻價千金トアリ梅ニ此詞ハ俳諧ハ老後ノ樂ト云ル
白馬ノ遺訓ヲ摘ナカラ老ノ月日ノ大切ヲ云ナリ然レニ發百中
ト翻レ一以万貫ト轉レん此等ヲ拙骨ノ願神ニシテ文法ハ例
言フニ及ハス百千一カラ以テ之改ニ合ん字對ノ絶妙ヲ称ス

一ナリ △論語ニ四科十哲ノ名録アリ筆ニ及ハス梅スル
武洛角ニ枚汎光蘭子那尚角ハ有君曾參ノ書アリテ
辟言ハ蕉河ノ補佐ト云ク其角汎雪去来ナクハ子游
子夏カ入アリテ辟言ハ蕉河ノ史令ト云レ △論語頽河
曰魚成善魚施勞ラズ薪水ノ旁トハ朝暮ノ費缺ラズ
△論語吾子回言終日不違 △此科ハ德行ト言語ト文字
トナリ政事ハ今ノ用ニ非ス梅ニ此詞ハ我師ノ德行以下ニ科
ヲ奉ヘキ表文ノ有増ナリ是ヲ本注ノ文法ト知レ △昭名ノ碑ハ
七子ノ謎文ナリ漢ニ曹娥ノ碑ニ效ヘリ昭名ノ碑又ハ此銘ヲ以
本朝ノ始ト云キナリ △婆羅双樹ハ文皇ノ香木ナリ今ノ双林寺ニ
竹木アリ ●聖歌ノ雲ハ前ニ出ナリ △凱波遺快ノ角匠書ニ
出山佛ノ古スアリ十論ノ為辨ニ見レ △佛書ニ結ノ香火因ハ

燧香燃灯ノ因縁トシ△老子經ニ辱命不待功成不居△祖翁
遺稿トハ難波遺快ニ又章ノ五故ハ枚以あり又考ニシテ
臨權トアリ貞子式ハ五秘ノ才トシ△自集集ハ俳諧遺訓
ナリ四十二條ノ家法アリ減後ニ其佳ホシノ事ニテ白馬經トハ
内人ノ称各トフ△貞子式ハ俳諧ノ式自ナリ用括ニ古今ノ違
アリトフ△大和詞ニ冊アリテ先師ノ新撰ナリ漢土ノ野字ニ和訓
ヲ加テ大和貞各ノ用トス五美ノ古法ヲ以テ詠ナリトク△辭類
引類ハ本朝文鑑ニ細註アリ其題ナニ見ルニ△歎快ト我身
ノ文種云ヲ教ヘ奉テ官禄ヲ望ム時ノ詔快ナリ歎ハ苦官坊
ナトト撥スハ大和ノ故矣トフ△東老式ハ貞子式ノ附録ニシテ
多ハ同花ノ詠ナリ△子録ハ先師ノ家訓ニシテ時且ノ子ヲ以
テ世法ノ用トナリ△云條法ハ十論ニナリ△五條式ハ文賦ニナリ共ニ

其書ニ見ナリ△授記ノ子ハ佛經ノ語ナリ按スニ一切經ハ
多ハ燃灯佛ノ授記ニシテ例ニ述レ而ト作ト云レ聖經ノ辭多
ナレハ多モ祖翁ノ授記ト云レ△史記滑稽晉贊ニ談言
微中トハ俳諧ハ微細ニ物情ヲ尽テ言語ノ的中ト云レ按
スニ此段ハ二條法ノ結ニ今カラ老若ノ對ハ字對ト云レ意對
云レ又ニ筆台ノ絶妙ト稱スレ△論語ニ君子有レ之喪整
之儼然^{カク}而^ケ之也温^ラ聽^ク其言也厲△我貞子公宰我ト
子貞トナリ禪語ニ坐断^ス天下舌頭トハ人ニロシ明セ又事ナリ
△史記ニ孔子誡^ク子貢曰美言傷信慎言^ヤ或接スニ宰我
子貞ハ言語ノ科ニ早カラ折^リ々ニ言語ヲ誡^テ其等ノ
懲^テ意ヲ動破^レテ釘語ハ頓坐ノ絶妙ト稱スレ△誡語字
トハ中ノ凡ヲ云レリ言偏ト人偏ノ論ハ十論ノ才一段ニ見ルニ

△史潛（註）其（註）常（註）以（註）諫（註）記（註）諫（註）稱（註）美（註）孔子家語
ニ出（註）たり△惡（註）懲（註）罪（註）善（註）勸（註）功（註）ハ勸（註）善（註）懲（註）惡（註）ノ常（註）語（註）ナカ
ク多（註）ク文章（註）ノ裁（註）断（註）ト云（註）テ格（註）ニ倒（註）特（註）ニ絶（註）妙（註）ト稱（註）スニシ

○評（註）云（註）け（註）ま（註）と（註）自家（註）の（註）凡（註）聽（註）一（註）論（註）と（註）師（註）法（註）と（註）減（註）と（註）
一（註）似（註）これ（註）と（註）始（註）段（註）と（註）産（註）神（註）の（註）凡（註）誦（註）一（註）キ（註）と（註）り（註）て（註）凡（註）雜（註）
生（註）知（註）の（註）あ（註）り（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）中（註）段（註）と（註）我（註）師（註）の（註）之（註）稱（註）と（註）
あ（註）り（註）て（註）他（註）道（註）建（註）立（註）の（註）證（註）と（註）あり（註）結（註）段（註）と（註）産（註）神（註）の（註）
親（註）愛（註）一（註）あ（註）り（註）て（註）百（註）世（註）の（註）法（註）と（註）非（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）
子（註）美（註）と（註）歎（註）怆（註）の（註）在（註）例（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）
て（註）ま（註）い（註）言（註）語（註）の（註）虚（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）
あ（註）り（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）
む（註）へ（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）と（註）あり（註）

○教人之類

序山公九錫俳諧文 宋袁淑

若乃之軍陸邁糧運艱難謀臣停美武夫
吟嘆爾乃長鳴上黨慨慷應邦崎嶇千里
荷囊致餐食用捷大勳歷山不利斯實爾之
功也走隨時興晨夜不默仰契玄象俯協
編刻應更長鳴豪分不減雖契奎著稱未
足比德斯又爾之智也青背絳身長頭廣
額修尾後出巨耳雙磔斯又爾之形也嘉

我既孰實須精麵負磨迴衡迅若轉電惠
我衆庶神祇獲摩斯又爾之能也是用遣
中大夫向丘騶如爾使銜勒大鴻臚班脚
大將軍宮亭侯以湯列之序江江劍之序
陵吳國之相序合浦之朱序封爾為序山
公

○譯云此文と宋の事文取取しゆく棟臣のハ字も
とくけしけ西もれれれ佛語の道といふ史記滑稽傳
とんとあけりれれれ六藝といふとありを傲中といふ
○解語とつた文云く贊詞より優游と談笑といふ

詠めあそむいとらと優孟の諷諫と勸懲の用とあり
とて妙察の譯林にも滑稽肯綮佛語とこれと
佛語と諷諫との傳國の字論とゆふれしかく佛語
の文とあつと馬の官祿とあつと和使とあつと
供奉の行侍とあつとくらすとあつとて言法の遊より
漢とと此文と好むやむむとあつと笑心の令城と
たふとて以曲とて佛とありて事とて此文とて事と
我文擇の選場とあつとれとていふ家の秘笈の松と
蒼蒼鬚公の九錫とあつとてこれに和漢の文對とあつと
古今に佛語の名とあつとていふとて文章とて虚之文
の鑑とあつとて述書とあつとていふとていふとていふと
事文取取と林羅山の點とあつとていふとていふとていふと

あられは漢音に通せり我々の言をまゝにあらせり
きこひは江神の文ありしは後世の風言をん
ふの訓新といふ推考の法はあじりるべしやね勤
あはれをまゝ

蒼髯公九錦俳諧文 丹名連

むし黄帝の時蒼髯公作りし子竹万本の
ふまとはりたれし梅樺の色よとてとある事
手取つたるとねえちとをの操あれし十八公此
各位と得たりてたのふのふまよとせりいなり
江の住あはれやそのち秦王の法持のびよしる

あはれはくるとや法はぬひみきとせし唐人
い麻どの法はけも衛士の又あつた女言をたれたと
のねたよまじり色のいなり色の御衣よまはれぬ
そのの御舞ありしねえちの各とせり
一上歳よけは代よそかりて素袍よ真帽よ威儀
とせりいふと名は杖の言おれちり失とてけのこわれ
幸あるもやけ我おのいありしとて思ふ所ののき
よひりかく女后更なるよいらいり年もねたの各
のきりてし所位言のよりの法とあれは唐崎のね
ひりり年とてし曾孫のねも頬杖よけちてふて世と

秋葉のふかき松も葉も青くはれ此風は涼を以て厨と號
 とのおぼしむるなりと云ふ家武家此は例の文よりて
 田舎なりとも畚ありし大工丸官の家からかみ方氏れ
 と賞状して今と祝言の才一と祝をげ小字は此
 等の事よりして皆きくけの事ありやはくとも和漢の
 是等とわかれかく文章に各と傳ふちり命し一々に
 之秋の名よきき金城の松を臺に一株九曲の松あり
 千夜と秋の名よきくけの松と虎の風よきくけ
 一園中双の木ちりといふ享保のころ一々の朝の月
 天帝の命ありて。蒼蒼駉公の名とかよむり九曲の

宿禰と御下松を非松の御ふくおぼしむるなりと云ふ
 信ミコトあれいふもや君臣のれありんをくちり。是より此
 いさ一かふ近くとも今の世の松もきくけにありて
 此松のいふもや君臣のれありんをくちり。是より此
 と云れされと云ふたおひり柳子河の事あり。舟名連
 こけのりりり馬と松との能器と和漢のあつらひあり
 と此陽文と和してかまむ者則天様かこれよりして
 九陽の次才と云ふなり。一と云ふ車馬二と云ふ衣服は。此松
 の後此いふもや君臣のれありんをくちり。是より此
 此松のいふもや君臣のれありんをくちり。是より此

のみらりと居るにや色はふるぬのたまふらん　　あはれ
 衣をせしむるさうねしゝ虎責とけの月にあむと
 けりあるに凡庸よのつそと福小ル帝とけるをさうけ
 のけりあるに月をさよ掃地とてさうも木たの産と
 まよむに一ひりさう葉とけのきあうりさうを對の
 ねをさうにさうもきもゆしてさうをさうもれのけり
 とらうとさう　　琴のきさうぬのえやうもに吾年の終とさく
 へさうもさうの納階とさういふに朱戸とさうさうね老
 其屋の結梅あうりさういふにさうとさう　　さう七さうさ
 うの用とあうりさうあうねのさあうりさう行とさうさ
 柳

のまを揚ふるぬのあうりさうのゆさうラテト南天のさうと
 けりあうりさうさうきさうとさう　　いふに鉄獄の海ゆ
 能とれいさうあうりに本鎖とさうと福小いさう樹の産と
 うさういさうあうりさうとさういさう　　九に袖巻とさう上代
 のみ数字とさうて天帝いさうとさうとさう　　副使を
 うとさうてさうねりさうあうりさう　　輔料とさう　　副使を
 いらるとし　　輔料と本鎖とさういさうに枝木たのねとさうい
 て暹羅あけの産とさうとさう火カキ撥チ打の窓とさうとさう
 和漢のねとさうとさうとさう　　さうの風流とさうとさうい
 東に松のきとさうとさうとさういさうとさうのさうとさうと

ニ及又藤ノ相致ノ下ニ知シ ▲史記ニ秦始皇ノ狩場ヲニテ
 雨ヲ松陰ニ避テ大夫官ヲ賜フ古ニアリ○古々竹若山ニ
 みくくしとせしむる所の下の下ありありとくさるなり
 ▲唐ノ竹ニ衛チ又五節カチ覺ノ夏アリ返攤ノ下ニ見合
 ス○し梅スニ時一段ハ一節中ノ名文ニシテ松ニ官爵ノ用
 ナカラ直ト日本トノ智惠ヲ競ヘタル錫文ニ和漢ノ詩
 テ一子一言ニ俳諧ヲ失ハス等ヲ之虚實ノ虚實ト云テ
 又ニ三鳥一草ノ絶妙ト稱ス○古今序ニ松ノ葉のあり
 ちりちりト云ハゆめのかつてゆくゆりてとあり梅ニ傳
 トハ思ヒ懸又仕合ラシテ梅松葉ノ諧語ニヤ然ニ改ノ
 万歳樂ハ跡取モナキ富語トト松太夫トモ鶴太夫トモ大夫ノ
 ニ子ノ繫キト知シ ○忠臣義士ノ子にさるゆめと云ハ松

のありさるゆめのきと云ハ松太夫トモ鶴太夫トモ大夫ノ
 人めらと云ハ松太夫トモ鶴太夫トモ大夫ノ
 教ありわらわらぬと云ハ松太夫トモ鶴太夫トモ大夫ノ
 もあり○意領ノ我ありと松と梅の傳りてくる者
 とも風と云ハあり ▲松蒼其聖ハ賀ノ金城ニ在リテ
 以曲亭ノ別號ナリ支那僧高泉ノ筆ニシテ額ニ松蒼
 室トアリト○事又類聚松詩以韻腹々ニ述更清
 蒼鬢瘦甲送耳亭ハ○詞花集書ニ云ハ代めい
 のりといふと云ハありと云ハありと云ハありと云ハあり
 大和ノ返辭ナリ然ト古訓ニシテハト有ト云ニシテハト訓スニ
 へハトノ傳韻ニテ左様ナリ在則下語ヲ駐テ次ヲ穆且故ナリ

ト大和詞ノ後即ニ註セリ
 ▲即毫臣ト孔明ナリ 四書
 律度日孔明即毫也先主之徒乃見之車馬之請魯
 敬ナリ 鐘山鶴ト周顯ト偽隱ヲ云一北山後又云
 空兮夜鶴然云或ハ截來轅社ヲ津口アリ按スルニ
 草ニ毫ト云鶴ト云元總テハ松ノ縁語ヲ故又ヲ摘コテ
 ヲ採ル時ハ此等ノ裁入ヲ鑑トスレ ●松ノ蒼蒼鬢ハ削ノ官名
 ナラハ風梳新柳髪ト云ハ都良香ノ詩勢カラ合ルニヤ
 蒼ト縁トノ互照ヲ見レ ○時雨松ノ前ニ出タリ ○遍照
 歌ニ世と云ハ蒼のなときしひと云ハと云ハらり
 ぬと云ハ柔む按スルニ此ニ錫ハ孔明ト周顯ト漢家ニ因テ顧ノ
 故又ヲ摘コテ慈鎮ト云照トニ倭朝ニ艶色ノ古歌ヲ採リ
 テ又ニ和漢ノ文對ヲ得テノ詞ノ裁斷ハ削ノ言ハ此等ヲ

錯綜ノ絶妙ト稱スレ ○丹院テハ此のあり山守のね
 風ゆるりあつてつれのとらちるるをさしとん ●史記本紀
 舞彈五絃琴ヲ歌ト南風薫兮解吾甲之愠云按ス
 ニ此ニ章ハ松ニ樂器ノ自在ト松籙ノ寄ハ更ニテ琴ニ詩歌ノ
 和漢ヲ對セル此等ヲ難々削ノ絶妙ト稱スレ ●八仙詩 帝之
 漢酒美少年皎如玉樹陰 凡前云按スルニ此ニ章ハ植木屋
 ノ松ノ起語ニテ粉黛ノ姿ヲ作止トナリ ▲文選曰九錫
 相毫一占珪瓊副璽云按スルニ此ニ章ハ八錫ニ俳諧ヲ
 書尽シテ又ニ相毫一占トハ音訓トモニ讀ミ難キヲ強
 博學ノ媚ヲ飾ラス日本ノ俳諧師ハ讀メヌトテ副璽ノ二
 字ヲ漢文ニ假テ九錫ノ面ヲ合セタル矣 吳中ニカヲ合テ
 文ニ隱見ノ絶妙ト稱スレ ○宗テテテ 常盤らら松の

けりしと云ふれんがよきものをもとめりきり△晋王義叔之
 愛竹曰一日無此君耶△梅ヲ天嶽トハ歌舞地ノ優
 言ナリ然六太夫ヲ松ト云ク天神ヲ梅ト云ル云ハ松竹
 梅ノ富ニシテ此等ヲテ今ノ詠諧ト云ハシ難彼物詠ニ
 まけしノ浦をねんとあり△松を其臺ハ金城彦多雲江
 町西ニアリ○徳富云ちとをわくがをねり松しとあり
 云しはくくよらゆやゆ△馬ニ無相トハ衣冠ヲ
 云ク△松ニ有情トハ夫婦ヲ云ルニ畢竟ハ有無トハ女情トニ
 文字ノ嚙ノ自在ト云ハハ互照ノ絶妙ト稱ス○白手夫
 詠ニ明神ト樂天ト詩歌ノ争アリテ多ク和漢ノ勝者ヲ
 結語セリ詩ヲハ例ノ又キルニ及ス○田村詠ニまよとホリ
 かなるの園をねりつれ鬼のまじりあり△風雅躰

トキ俳諧をト云ルニ條法ハ前ニ出タリ梅スニ此ニ句ハ
 一篇ノ物結ニシテ汝ノ躰ニ其風ヲ含シ汝ノ名トハ其躰ニ
 寄セテ虚誕中ニ余法ヲ忘ナル増テ著ク詠ノ一對ニ
 詠ヲ尽シ祝言ヲ調フ誠ニ俳文ノ鑑ト云キナリ
 ○評云けりしと云ク能淡トシテ格ヲ清ス茂ク魏云
 の九陽ト云フても云れぬ詠のそとにやたる詠
 と云セねしと云入と云を托物比興の法と云くは
 一ニ詠諷の用と云くは一ニ決笑の遊と云くは
 ほとりあまやまとありてやうな権林の権は
 評書れ糸の石と云ハ六秋の楚りしあきと云ふ
 左史と云ふ名と云くはつとあまの史の代と云ふ
 と云ふしと云ふと詠諧の新と云ふしそのと云ふ

此後の書安らんとやいな、今の二篇の常表、
丹名連して文に能治の虚文とく、
とよんどもはれ、表、
の耳にをく、
大和のつら、
拒登のう、
こと、
文人と、
況や、
とも、
これ、

ま、
二、
の、
と、
也、
ま、
の、

花刺札

係義紙

け花に南、
者任、

一指者也

壽永二年二月日

○評云は刺れとせしむるはさして或と誤るもあらず、
 ありて兵庫、各所記しむるもさし記さるに南、不也也
 之ありて不也の字も通じしり、或と誤るれ節も
 班波し別番係、刺れを刺へ花、刺れしは、
 帯身しすれ、江南梅花折、一枝者、可處、
 者也とお認るい、美作、折ありて花と折る心ありてい
 不折ありし、隆き、又さし、さし、さし、のり、江南梅花
 折、一枝、可處、一指者也、今之、九世の折れ、班波

の刺れと誤るも、お侍、や梅、江南のほあれ、つれ、
 後部あり、一と也、或と、天市紅葉、之例、も代、け、刺
 の例あり、や、尚、又、後部あり、一と也、け、牛、令、の、折、も、
 所、と、帯、身、と、例、の、武、者、一、て、殿、神、の、二、子、の、さ、し、と、
 ち、り、と、一、枝、一、折、の、あ、や、と、係、れ、れ、減、し、た、の、刺、れ、の、一、と、
 又、事、の、優、れ、一、と、美、作、一、と、武、の、各、あり、し、と、さ、る、一、

極樂寺教

並發句

是御房

知り、それ、是、御、房、さ、げ、つ、ら、ぬ、せ、し、く、
 の、中、に、極、楽、と、い、ふ、お、あり、し、意、い、お、は、る、の、葉、花、と、い、ふ、
 純、子、の、い、ら、目、か、や、と、い、ふ、清、枝、の、凡、味、と、い、ふ、
 山、葵

のちのひふ葉もくもくをばらけくてもちふ満陀所と
つらありくつらくもくもくをばらけくてもちふ満陀所と
ほふもあひくもくもくをばらけくてもちふ満陀所と
あふりくつらくもくもくをばらけくてもちふ満陀所と
世間あひりくつらくもくもくをばらけくてもちふ満陀所と
もふと極末をよににおくもくもくをばらけくてもちふ満陀所と
こころくもくもくをばらけくてもちふ満陀所と
橋下の陸夜うらむ故に優はす寒も優はす寒も一
紙中後のみくもくもくをばらけくてもちふ満陀所と
吹くもくもくをばらけくてもちふ満陀所と



吟吟して天龍も夜又も版のはとよんも今時と
くしく起て口^ノく^ク仰槽とまをばらけくてもちふ満陀所と
もふと極末をよににおくもくもくをばらけくてもちふ満陀所と
こころくもくもくをばらけくてもちふ満陀所と
橋下の陸夜うらむ故に優はす寒も優はす寒も一
紙中後のみくもくもくをばらけくてもちふ満陀所と
吹くもくもくをばらけくてもちふ満陀所と

父母といふなるものさうとすんといふと極楽の借
をたふしてさう灯籠のせよとすんといふと
とすんといふと極楽の借とすんといふと
とすんといふと極楽の借とすんといふと
とすんといふと極楽の借とすんといふと
とすんといふと極楽の借とすんといふと

四季花鳥

梅

梅のせらふやちうん北野梅

そ併言

尊

尊のやき衣いしちう極楽寺

貫仙

梯

七夜の梯あつてとすん極楽

依巴

時

時仰の起くすもやち極楽

石明

橋

きくら花の採香くす起御

盤泉

編幅

かきほらやむもあつて極天井

許丹

桂花

あけびやくやきとあけびのた

石人

厚

胡傳

降むくこのきとやまのけ

菓

里風

潮のくさくさや菓の極楽

片箱

中ト

みとさみこがくす十万里

雪花

高角

後くは院のち柄や雪のふれ

天人

陸夜

極楽の羽帯をさし舞ひ

○譯云此教を全く誦讀してふよは解るるよな
りてはさるるちを心算の法傳して七縦八横の曲の節
と法くさるる句作の法を中を結してまては足仰房
い先師の隱号よりして知りては僧家の善法を所

○書状類

年始状

左衛門尉

春始は初めに先祝申し早富を了福行心

幸甚く採歳初朝拜の相口之に次不意
 申之處神駈得人之子以遊之向五思也
 似首學忘檐花苑小蝶遊日影頻背中之
 候年將又揚了花小了勝負呈懸山串金州庫
 急物遊之九手夾八的等曲節近日打張
 孫宗之尋常射手強快速者少少有法誇史
 思食之給者存之也心之能多為期多會
 之次亦不勝度毫也謹言

○譯云は此の庭訓は来しゆく世に志ありおるれと
 大和の真名文とてあつたをこれ先蹤よりまゝ

或は傳年よりもと和訓の厚習とて或は思言
 とりてそと漢文の假言とていふもあれども庭訓
 と漢土の財詠とあつたらぬ多し例の古和詞
 とりて和漢の両用と通をむるもこれれをいふ
 の中探ちりてやむらりり多事の優格と清徳と
 唐との證とらひ漢中とち和の證とて了助詠解と
 今此と此通用の再書の設よりまゝとせ

遺在五郎書

楠正成

け度傳年より下りて非不美我亦家朝近し
 教書殿成也く若きりし仲彦ゆかむ我く

西重文^ニ取道^ハ不^レ却^ル子^ノ悔^ハ成^ル也^ト後
我^ハ中^ニ社^ヲ作^リ言^フ

あ^ハけ^テ猪^一足^二こ^ハら^レお^ユり^ニ祝^スら

と^ウか^ハあ^ヒま^シて^ハ野^ノか^ハ

○ほ^ハ四五^ニ建^武と^キ年^ハ月^ハ日^ハ漢^ノ川^ノか^ハ婦^ノ！
ち^ハら^レか^ハく^ハ一^ノ分^ノ命^ヲと^シ執^ルの^ノ子^ノと^ク思^ハあ^ハの
常^ハあ^リ了^ル結^ハ決^ハノ^ノ案^ノの^ノま^トは^ハる^ノ悔^ハ成^ルと^シ視^テ観^ル案^ヲ
の^ノ用^ノの^ノこ^トあ^リま^シ一^ノ言^ハぬ^ノ復^ルと^クる^ノ丸^ノ詩^ノの^ノん^トは^ハく
し^ハん^ハや^ハま^シと^クの^ノこ^トは^ハる^ノ謀^ハ文武^ノの^ノ軍^ノ師^ノか^ハて
け^ハ前^ニに^ハ張^ハ良^ノ智^ハ勇^ノと^シあ^リり^ト死^ハぬ^ハれ^ハ明^ノく
翰^ノ墨^ノと^クの^ノこ^トを^シる^ノ年^ハの^ノ廿^二の^ノ武^ノ道^ノと^ク終^ルと^ク一^ノ

配取返状

次庵和尚

つ^レま^シの^ノ國^ノ此^ニ配^テお^ハと^ク向^ハふ^ハ二^ノその^ノ去^リれ^ルを^シへ^テ

オ^ハあ^ハま^シく^ハ秋^ノと^クる^ノハ^ハ此^レ後^ハ楸

と^クれ^ハも^ハと^クる^ノ神^ノと^クる^ノは

と^クれ^ハも^ハと^クる^ノは^ハ此^レに^ハあ^ハれ

あ^ハる^ハあ^ハい^ハん^ハじ^ハと^クの^ノに^ハせ

ぬ^ハの^ノま^シを^シて^ハあ^ハら^レぬ^ハん^ハは^ハあ^ハら^レぬ^ハん^ハは^ハあ^ハら^レぬ^ハん^ハは^ハあ^ハら^レぬ^ハん^ハ

あ^ハら^レぬ^ハん^ハは^ハあ^ハら^レぬ^ハん^ハは^ハあ^ハら^レぬ^ハん^ハは^ハあ^ハら^レぬ^ハん^ハ

あ^ハら^レぬ^ハん^ハは^ハあ^ハら^レぬ^ハん^ハは^ハあ^ハら^レぬ^ハん^ハは^ハあ^ハら^レぬ^ハん^ハ

○侍らば書と子息の次郎の遺訓せよと云ふに
 二書あり中一は宗名の遺訓と云ふ中一は宗名の
 美記と云ふ一は才と人同の才と云ふと云ふ事あり
 にありて勇氣と剛の事ありて又信の事あり
 りて又常の釘詰と云ふ事ありて又信の事あり
 云々といふ事ありて又此の遺訓と云ふ事あり
 瀧之脈の事ありて又此の遺訓と云ふ事あり
 物の扱事と云ふ事ありて又此の遺訓と云ふ事あり

馬存文

荒木山城守

熊申入候近日西国可令下向惟拙子

物共色之可被調置惟聊無御新
 頼入候恐惶謹言

天正三年八月日

阿彌陀殿

○侍らば書と子息の次郎の遺訓せよと云ふに
 二書あり中一は宗名の遺訓と云ふ中一は宗名の
 美記と云ふ一は才と人同の才と云ふと云ふ事あり
 にありて勇氣と剛の事ありて又信の事あり
 りて又常の釘詰と云ふ事ありて又信の事あり
 云々といふ事ありて又此の遺訓と云ふ事あり
 瀧之脈の事ありて又此の遺訓と云ふ事あり
 物の扱事と云ふ事ありて又此の遺訓と云ふ事あり

申石谷十歳状

板倉内膳正

○ 去年、くえり、名能、江、城、孫、身、慣、子、之、孫、
今年、今、見、者、能、孫、京、之、孫、縮、甲、之、孫、候、
一、首、有、氣、候、得、共、急、戦、死、申、候、何、事、
替、行、世、明、日、今、更、候、可、祝、

正月朔日

○ 頃、云、は、折、と、申、る、者、あり、く、東、書、西、史、一、者、伊、人、これ、
文、の、長、短、も、中、ら、く、一、く、或、一、首、有、氣、の、事、と、
一、ふ、ま、く、一、者、一、歌、と、載、と、ら、し、何、の、事、な、れ、と、海、

身、と、よ、と、推、し、戦、死、と、文、と、を、受、け、ん、と、忠、臣、の、風、節、
一、忠、美、と、せ、ん、と、中、ら、ん、文、武、の、大、将、と、稱、と、
一、軍、と、言、え、承、十、又、年、り、一、と、し、日、と、鹿、頭、の、曾、
と、と、一、中、月、の、指、拍、と、し、さ、ら、ん、と、地、板、倉、の、孫、
一、内、膳、正、と、任、と、お、名、と、重、留、と、し、と、せ、

招隠文

東巻坊

む、一、周、麟、と、鐘、山、一、か、ら、れ、く、各、利、一、神、の、み、
と、か、ら、ん、と、う、の、白、駒、子、と、洛、陽、一、あ、ら、ん、と、神、も、
ま、ら、り、仰、と、ま、く、一、日、風、神、と、の、ま、ら、り、と、か、ら、ん、

さら人月あまつの興上り遊りたるあり候事にて
 むらり多く市甲の大隈ちりとあり一りおけ人
 い様の伊丹の書して各う一在り云の書^{イラカ}とあり候
 錦踊の中はひんかたうらう三宮路翰の遊遊く
 ねと書さるる魚の風流と伝く。文的書合れおきり
 あつらんも。未信衣と相出おりあつ。こあつたあつて
 世とあつたあつ。よくい入にじやとてあつたあつとてん
 こあつとてり。果あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ
 にかつらう。みえう。九月のあつ。あつたあつ。あつたあつ
 へ信らん。梅の書、の、まとあつ。あつたあつ。あつたあつ
 へ信らん。梅の書、の、まとあつ。あつたあつ。あつたあつ

さらり候と愛蔵の中と一々のあつと得。流の
 あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ
 せよあつたあつ。あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ
 へあつたあつ。あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ
 のあつたあつ。あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ
 へあつたあつ。あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ
 へあつたあつ。あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ
 へあつたあつ。あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ
 へあつたあつ。あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ
 へあつたあつ。あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ
 へあつたあつ。あつたあつ。あつたあつ。あつたあつ

あつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 てまひあつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 支道とつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 あつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 のまひあつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 音お詠とつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 花鳥とつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 猫舌のお世界ちんちんあつた風草の地ときまひ
 おしつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 とつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ

あつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 此御の風草とつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 きつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 鼠と馬のひらきつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 加とちの風草とつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 こつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 下つた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 うちつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 長草のちんちんあつた風草の地ときまひあつた風草の地ときまひ
 くらつた風草

○註曰△招隱之字六諸書ニ出テ詩云々又氏云々隱倫今
 招請シテ我友ト成スノ謂ナリ ▲周顯カ隱隱ノ友ハ北山
 移文ナリ前ニ出タリ梅スルニ此一篇ハ總テ移文ヲ籠轉
 セリ其文ノ下ニ見スレ△夜鶴トモ曉猿トモ例ニ移文
 裁入ナリ ●文明病中遺妓詩黄金用足教歌舞
 留不他人樂少年 ●未嘗悼亡妓詩昨日施僧裙
 帶上斷腸猶繫髮慧慧結梅スルニ此一對ハ白鷺ナリ
 年ノ比ニ未嘗ト如軍遊ヲ失テ浮世ノ暖燠ヲ見果シヨリ
 今隱者ト成レニヤニ詩ノ取合ヲ稱スナリ ○兼好詩
 あらじとらん人々まじりてわが力のなれやこころにわづらひ
 の月 ▲雪ニ曉舟トハ載速カ故モ又ナリ前ニテ○後成
 じくくふまのいぢりのあゝあるふふくあゝくあゝくあゝく

わとむと ▲浦嶋トモ孫ニ逢スル夏ハ万葉長歌ニテアリ
 此樂也 ▲漢書本李廣傳桃李不言下自成蹊○兼好
 詩こころまじりて浮世ちりきりてをあくるりりり此句
 ちうれ ▲東魯モ南郭モ移文ナリ其下ニ見スレ
 △六玉川ハ六町ノ各跡ナリ歌ハ拳ルニ及ス梅スルニ益琴貝和歌
 ハ當時ノ各道ヲ撰ヒ俳諧ハ夷洛ノ文人ヲ聚テ二幅一對ノ
 美色物ト成セリ誠ニ家珍ト云キナリ ▲神仙傳有老翁
 賣菓子懸一壺於肆頭及市罷跳入壺中壺中公孫長
 房方師ナリトシ河本坐潛傳支道買山歌隱借口歌學不輒
 給堂圃業由買山而隱 ▲自題堂記ハ文鑑ニ出テ實ハ
 緋帳ノ富言ニテ又ハ長明カ方也記ニ據リトシ△源中須止卷
 はうりくきらうりく地トとあり△瑠璃思ハ業所経ニ云

東方ノ淨瑠璃世界ナリ。梅ニ白鶴ノ二段ハ五湖ニ江ノ廣ニ莫
 ナル清風明月ノ皎潔ナル松ノ字ニ絳帳ノ面敷ヲ字ニ瑠璃
 ニ字ニ絳帳ノ玲瓏ヲ含ム摘語採文ノ自在ヨリ此等ヲ
 謎文ノ絶妙ト稱ス。○行車ノ字ニ立コケルイヌノ心カ
 子ノ心カトナリトナリトナリトナリトナリトナリトナリトナリ
 因幡業師ハ今ノ函居ヲ移セルニ業師ハ瑠璃界ノ起結ナリ
 龍葉ノ鳥ト因幡ノ松トニ首ノ古歌ヲ摘入ル起結断結ハ
 例ノ言文法ニ鎖詞ノ絶妙ト稱ス。▲万姓統譜趙清猷公
 初任成都携一琴一鶴以行云。遠越ニ道具ノ十キ喻ナリ
 △登客ノ雲モ比取ノ流モ絶テ移文ノ取意ニテ神力ノ奇特
 シ云リ。●杜律胡馬詩凡ハ四蹄輕。▲增智ノ前驅ニ空鮭
 ノ詠諧アリ本朝高僧傳ニ未ダシ。△隱士傳竹林ノ七賢

アリ細筆ニ及父梅スニ此二句ハ數下ト云々都ニ似テ其ニキ
 取ト下竹林ノ風流ヲ添テ然モ賢人ノ跡ヲ追ハテ下例ニ其
 跡ヲ仰トセト云ル此文ノ意地ニテ下教下ノ鎖詞ハ言ハ
 筆力ニ換骨ノ絶妙ト稱ス。○兼好齊世の中とてこの
 くらゐをいへばある。○梅ノ心カトナリトナリトナリトナリトナリトナリ
 将謂偷用字ナキヤ。●山客集江南野水碧於天中在自
 鶴用似我云
 ○便云此梅と梅より北山移文ノ敵一ト市中に大隱の意
 採トシ一ト云々此二句の句ニ元ノ箇の好更在後と
 わらぬれ一ト云々此二句の句ニ元ノ箇の好更在後と
 おこせ一ト云々此二句の句ニ元ノ箇の好更在後と
 ありてこれより梅字の用と梅用とを云々

答五老并狀

蓮二房

久敷打絕沛病氣可心之存作不從播屋法狀
 到來撰集之佛不審共逐一令亦知作志比
 者靈鈴八氣杯緩之好費意惟由病中之
 佛器量尚心不撻中勇健之段悅入維未也集
 出板之後送者奉祈佛存命作然則此度逢此
 外申惟謂選文選之意趣乃者就風俗文選
 之中而再選申度事四五也其才一者我家之
 文章惠可有虛實之設事才二者假名之

叶韻卿可有以立橫之違事才之者和訓之文法
 在可有誥路之拍子事其次者有假名真名
 之配事其次者有標題之取捨事右之五條
 者於五老并書老與先師相談之時皆之被
 成合點隨出板之節文章手弱所聞之則不愜
 武士之撰鋒中如本佛直惟而先師在京之比
 也則校合麼隱可申肯從并筒屋內意有之
 與哉左有事者不抱世間之諍刺不取墨人
 於相手與者適作五老之家凡此美者遺遺舊行
 之法式則其取如佛諸淫般經北野如南無

佛語解似一卷之散間教乎在許拉和漢之
 學者而唯可惡者言語之虛妄也其譬則如
 文選之直首傳坐斷天下之舌頭其自慢者
 家以之建立而教迦副有唯我獨尊之語則
 數不成兼好法師麼有七只之自讚其曾
 以人不憚有者虛妄無虛妄之跡故也然其
 傳亦有奉四季之發句而所刺給自慢之釘假令
 其句放光明共人情之妬者其妄也其尤在那丹霞
 燒給不佛麼對者當院主之身而仰之一字為
 認其妄麼佛語之二字為認其妄麼何欤者

可分其罪第矣佛語者好不忘談其之用言語
 散者可越松坂與所右之條久者先師之遺筆而
 答佛中面大肯也將又我黨之所冀者均為老
 之文章二之篇而所度成文強之飾則文選之各
 名成紙上之戲論而文章之文情者可傳而世
 厚哉它賢不惑凡雲之河法多添給謝公
 之筆力則選場之大幸何事知之矣其故封其
 快而祖公羽之得前林焚香而董誦再之而申遣
 候貴報者例之奉侍抑後園候

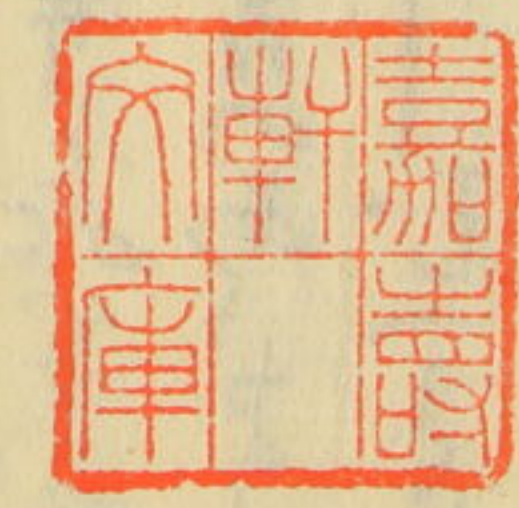
多罪之誠恐頓首

○ 漢云は状と傳文のほねあう。拙は漢土の物字をやつて
 例し和漢の通用とあるが、こゝに魚錦といひ
 翰墨合書といふものも、これの當用といふに似てゐる。
 我々の字を連して論語といふも、唐訓といふも、
 相通と云ふのは、日用と字ひらくや、たゞは状のたゞ
 といふに實永の中比ふに、選文選のそとに比ぶに、
 先作と許六と贈答の論あり。こゝに先作と云ふこと
 は、こゝに選文といふことと、け書と又を并べ、再作
 本館文鑑の一助きといふことと、おぼしむるに、佳と未の
 秋ちりりといふれども、又をこゝに比ぶの秋といふ
 と、辭といふも、こゝに比ぶと、銛と湖南といひて、又を比

本館にあらひ、こゝに選文といふも、唐訓といふも、
 相通と云ふのは、日用と字ひらくや、たゞは状のたゞ
 といふに實永の中比ふに、選文選のそとに比ぶに、
 先作と許六と贈答の論あり。こゝに先作と云ふこと
 は、こゝに選文といふことと、け書と又を并べ、再作
 本館文鑑の一助きといふことと、おぼしむるに、佳と未の
 秋ちりりといふれども、又をこゝに比ぶの秋といふ
 と、辭といふも、こゝに比ぶと、銛と湖南といひて、又を比

け二件と、松子庵の秘事と、
 百書二巻の事と、
 松子庵の秘事と、
 百書二巻の事と、

Handwritten text in a cursive style, possibly a transcription of a letter or document. The text is arranged in vertical columns and includes some characters that appear to be in a non-Latin script, possibly Japanese or Chinese characters written in a specific style.



文操卷之四終

